

1 題材名 西洋と日本による表現方法の違いを味わおう

2 本題材の目標

(1) 我が国や西洋音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。

〔知識及び技能〕

(2) 音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴く。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 西洋と日本による音楽表現の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に鑑賞の活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3 指導事項との関連

B鑑賞 (1) ア(ウ)、イ(ウ) 〔共通事項〕 (1)ア

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：
音色、リズム、旋律、テクスチュア

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①西洋音楽（オペラ）の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	思①音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	態①西洋と日本による音楽表現方法の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。
知②我が国の音楽（能）の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。		

5 題材について

(1) 題材観

鑑賞の授業において、西洋と我が国の音楽の聴き比べを行う。西洋音楽ではオペラ「アイーダ」、我が国の音楽では能「羽衣」を鑑賞曲として取り上げる。二つの作品は、どちらも音色や旋律などから各場面の状況や登場人物の心理表現が分かりやすい作品となっている。使われている楽器、歌声や謡から、西洋と我が国の音楽表現の違いが理解しやすいと考えられる。この2曲を鑑賞し、音楽の多様性について理解する力を深めていく。

(2) 生徒観

本校の生徒は、鑑賞の活動に苦手意識をもつ生徒が多く見られる。本校の第3学年の抽出学級に実施した意識調査では、音楽科の活動の中で歌唱が好きと答えた生徒は約*割だった。一方、鑑賞活動が好きと答えた生徒は約*割と、歌唱活動に比べて苦手意識が高かった。苦手を感じる理由としては、「作品の特徴（音楽用語や記号）を理解することが難しい」「自分の考えをまとめて鑑賞文を書くことが苦手」などが挙げられたが、物語性のある作品には興味・関心があることが分かる。生徒の実態から、これまでの学習指導を振り返り、題材設定や感受したことを発表して共有する活動などの手立てが十分ではなかったと考えられる。しかし、鑑賞の活動が好きと答えた生徒の中には、「物語性がある題材は取り組みやすく楽しい」という理由もあり、物語性のある作品には興味・関心が高いことも明らかになった。

(3) 指導観

生徒の実態から、取り上げる題材を物語性のあるものとし、生徒が鑑賞活動をしやすいように改善することが必要であると考え。具体的には、写真や動画を取り入れることで興味・関心を高める工夫や、鑑賞を行い自分の意見や考えを交流する活動を行っていく。また、使われている楽器や歌っている人の声、西洋と我が国の音楽文化の違いに触れながら鑑賞することにより、音楽の多様性について理解する力を育むことができるよう支援していく。さらに、楽曲について評価や分析したことを、互いに共有する活動を行うことで、新たな音楽表現の方法を学ぶきっかけとなるようにする。

6 題材の指導計画（4時間扱い）

○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

次	時		知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	課題 オペラについて知り、物語の内容や登場人物の心情を味わおう。 ・オペラについて理解しながら作品の内容を知り、登場人物がどのような気持ちで歌っているかを想像する。 ・音楽を形づくっている要素とのつながりを感じながら、4曲を聴いたり、映像を鑑賞したりする。 まとめ 楽器の音色や歌声から、登場人物の気持ちを感じ取ることができた。	○		○		知①：西洋音楽（オペラや演奏されている楽器）についてのスライドや動画を作成し、それを見ながら理解することができるよう支援する。 【観察・発言】 思①：楽器の音や声色、音の重なりなど各場面や登場人物の心情がどのように働き、その雰囲気を出しているのかに着目して鑑賞する。 【記述】 ・各場面や登場人物の心情を感じ取る活動が進まない生徒に対して、歌声や旋律を聴いて自身がどう感じるのかを確認し、支援する。

2	課題 お気に入り曲の「魅力」についてまとめ、良さを伝え合おう。 ・ 4 曲の中から 1 曲を選び、批評文を書く。 ・ 音楽の特徴や良いと思ったことを確認しながらまとめる。 ・ 自分が選ばなかった 3 曲について、どのような良さがあるのかをグループごとに伝え合う。 まとめ 選んだ曲の魅力をまとめ、良さを味わって聴くことができた。 他の曲にも良さや美しさがあることを知った。	◎		○	態①：4 曲の中から 1 曲を選ぶことができない生徒には、動画を視聴する際に、曲のストーリーと特徴、作品と結びつく音楽の要素をキーワードとして掲示することで、興味をもって鑑賞し、選択できるように支援する。【観察】 思①：活動が円滑に進まない生徒には「音楽の○○（音楽の要素）」という特徴から登場人物の△△という気持ちを感じられ…」という型を提示することで、自身が聴き取ったことをもとに批評文を書けるよう支援する。【記述（批評文）】 知①：西洋音楽（オペラ）の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【発言・記述】
2	3 課題 能について知り、物語の内容や登場人物の心情を味わおう。 ・ 能について理解しながら作品の内容を知る。 ・ 声と楽器の音との合わせ方等を意識しながら鑑賞し、各場面や登場人物の気持ちを想像する。 ・ 日本音楽の良さや特徴をまとめる。 まとめ 声の出し方や楽器の音色から、日本の音楽の良さや特徴について知ることができた。	◎		○	知②：我が国の音楽（能や演奏されている楽器）についてのスライドや動画を作成し、それを見ながら理解することできるよう支援する。【観察・発言】 思①：各場面や登場人物の心情を感じ取る活動が進まない生徒に対して、和楽器の音色や地謡の声の出し方を聴いて自身がどう感じるかを確認し、支援する。【発言・記述】 知②：我が国の音楽（能）の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【発言・記述】

4 本時	目標：西洋と日本の音楽表現の違いを通して、新たな表現方法を味わう。 1 本時の目標を確認する。 課題 西洋と日本による表現方法の違いを味わおう。 2 聴き比べを行う。 ・「アイダ」と「羽衣」の聴き比べを行い、互いの音楽表現を再確認する。 3 2曲の表現方法の共通点や相違点についてまとめる。 ・個人でまとめる。 ・4人グループで共有する。 4 本時のまとめと振り返りをする。 ・他者の発表を聞いて、気付いたことや新たに発見したことを振り返る。 まとめ 友達の発表を聞いて、新たな表現方法を発見することができた。				・目指すべき目標を分かりやすく伝え本時の目標を明確にする。 ・作品の内容や登場人物、楽器の音や声色が、作品の中でどのように働き、その雰囲気を出しているのかを再度鑑賞し、確認する。 ・作品に結びつく音楽の要素（音色、リズム、旋律、テクスチュア）をキーワードとして提示しより深く考えられるように支援する。 ・活動が円滑に進まない生徒には、「2曲の作品はそれぞれ、どのような特徴から、場面や登場人物の気持ちが表現されていたのか。」という声かけを行うことで自身が感じたことをもとに書けるよう支援する。 ・一人一人の感じ方や考え方をグループで共有し、互いの意見を尊重し合えるようにする。 思①：音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考えその良さや美しさを味わって聴いている。【記述（批評文）】 態①：西洋と日本による音楽表現方法の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。【記述】
---------	---	--	--	--	--